

Department of Finance

ファイナンス学科
新入生の皆さんへ



2022年度版

滋賀大学経済学部

ファイナンス学科

令和4年3月

ファイナンス学科の新入生の皆さんへ

ファイナンス学科 学科長

ご入学おめでとうございます。

今日の日を迎えるにあたり、皆さんは「ファイナンス」とは何か、「ファイナンス学科でどのような分野について研究するか」を、事前に考えてきましたか？

「ファイナンス」は、「資金の調達と運用に関する分野を総合的に研究する」学問とすることができます。金融システム、金融市場、資本市場、外国為替市場、金融政策、信用リスク、金融機関経営、金融の歴史、金融倫理等々の制度論的な分野と、マクロ金融論、金融契約論、金融政策の効果分析、国際収支分析、銀行の行動分析、ポートフォリオ（資産選択）分析、金融工学、デリバティブ（金融派生商品）分析、計量ファイナンス、リスクマネジメント等の理論的分野等からなります。

コンピュータソフトの普及によりファイナンスに関する研究は日々進化しており、最近のノーベル経済学賞はファイナンス研究者にも与えられています。ファイナンスはこのような先端分野を研究する一方で、経済の血液である金融に関連する根本的事項も研究することから、幅広く応用のきく分野でもあります。

ファイナンス学科卒業生の過去の進路は、金融機関に限定されることなく、証券アナリスト、不動産鑑定士、公認会計士、税理士、公務員、ファイナンシャル・プランナー、テレビ・新聞記者、等多彩です。

滋賀大学経済学部ファイナンス学科は、平成3年、全国で最初に新設されたファイナンスに関する体系的学科であり、カリキュラムも充実しています。また平成13年には大学院修士課程にグローバル・ファイナンス専攻が新設され、さらに平成15年には大学院博士後期課程経済経営リスク専攻で、金融リスクを一貫して研究できる枠組が整いました。

この恵まれた教育・研究の枠組みを生かし、充実した学生生活と将来に向けた真の実力とを手に入れてくれることを期待しています。

以 上

履修科目の選択と将来の進路

ファイナンス学科 学科長

履修科目は、皆さんの学問的関心に基づき自らの判断で選択するものです。しかし、4年後の進路を視野に入れた選択も必要となることは言うまでもありません。さらに、年功序列型賃金体系から能力主義への転換が進み、就職後のキャリア・アップも考えなければなりません。滋賀大学経済学部は、諸先輩の活躍により就職状況は比較的良好であると言われていますが、その状況は楽観できるものではありません。皆さんには、4年間の在学期間中に自らの能力を啓発し、諸先輩が築かれた伝統を受け継いで頂きたいと願っています。

経済学部卒業生の進路は、進学、官公庁、企業等、多種多様です。その内、約80%が企業へ就職しています。その業種は多岐にわたっていますが、ファイナンス学科に関して言えば、銀行、保険、証券等の金融業への就職が比較的高いという特徴があります。以下では、皆さんの卒業後の進路との関連から履修科目の選択を説明していきたいと思います。

1990年代に金融システム改革が行われ、銀行でも投資信託等が販売されるようになりました。銀行への就職を考えている人も証券分析の知識は必要不可欠です。また、金融監督や金融的支援を行う公務員にも金融、証券の知識は必要です。

例えば、公務員になるには、公務員試験に合格する必要があります。一口に公務員と言いますが、その種類は多様です。国税専門官の専門試験は会計学が必須となっています。つまり、ファイナンス学科教員が提供する科目、関連する他学科の科目を将来の進路に応じて弾力的に履修していく必要があります。そこで、次にいくつかの例を簡単に紹介し、どのような科目を履修すれば良いかを考えていきましょう。

【注意】各種試験等の情報は、必ず各自で最新のものを確認してください。

■証券アナリスト

証券アナリストは、「投資の意志決定過程で財務的・経済的・統計的データを評価し、適切に利用する個人」と定義されています。例えば、証券会社で上場株式の価値を評価し、投資の推奨や投資情報の提供を行います。また、銀行や生命保険、投資顧問などの会社でポートフォリオの運用・管理に携わります。従来は、証券会社の従業員を中心に証券アナリストの資格を取得していましたが、最近では銀行、保険等の従業員も資格をとることを会社から奨められています。

証券アナリストの資格を取得したからといって、直ちにそうした職業につけるわけではありません。しかし、証券アナリスト試験の内容は、大変幅広く、内容も充実しています。専門的な職業人にとって基本となることが網羅されているといっても過言ではありません。日本証券アナリスト協会の証券アナリスト試験に対応した科目には、経済、ファイナンスだけでなく、法律、経営、会計などが範囲に含まれます（詳しくは、<https://www.saa.or.jp/>を参照してください）。各々の基本を習得しておくことは、実務にでた場合も役に立ちます。将来、金融関係の仕事を考えて

いる人は、これらの科目を在学中にしっかりと勉強にしてもらいたいと思います。

■ファイナンシャル・プランナー

ファイナンシャル・プランナー(以下、FP)は、株や保険、不動産等の資産運用、老後の人生設計等の相談業務を行っています。それ故、FPには、金融商品、株式、保険、不動産、税金、年金、ローン等の幅広い知識が要求されます。個人のライフプランにおいて、資産運用の重要性は高まっています。

FPは、日本ファイナンシャル・プランナー協会がその資格証明を行っています。日本FP協会では、AFP資格、CFP資格の認定を行っており、それぞれに資格取得条件が定められています。詳細は、日本FP協会のHP (<https://www.jafp.or.jp/>)を参照して下さい。

■公務員

公務員になるには、一般に公務員試験に合格しなければなりません。国家公務員試験には国家公務員採用総合職試験、国家公務員採用一般職試験、地方公務員試験には上級試験(大卒程度)があります。国家公務員採用総合職試験は中央省庁の幹部候補、国家公務員一般職試験は中央省庁の中堅、各出先機関の幹部候補の採用試験です。この他に、財務専門官採用試験、国税専門官採用試験、労働基準監督官採用試験もあります。財務専門官は、財政、金融等のプロフェッショナルとして、地域金融機関の監督等の業務に従事します。国税専門官は、税のスペシャリストとして国税局等に配属されます。地方上級試験は都道府県庁、市役所等の幹部候補を採用する試験です。

国家公務員採用試験に関しては、人事院がHP (<https://www.jinji.go.jp/>) で詳細な情報を提供していますのでこちらを参照して下さい。また、地方公務員の試験情報は、多くの自治体がHPで公開しています。

■税理士

税理士は、個人や企業の依頼に応じ、所得税、法人税、消費税、事業税等の納税手続きの代行を行います。また、会計帳簿の記帳やその他会計関係の相談業務も行っています。税理士になるには基本的に税理士試験(国家試験)に合格しなければなりません。試験は科目合格制で、1科目ずつ受験することが可能です。

税理士試験については、国税庁HPの税理士試験情報 (<https://www.nta.go.jp/>) を参照して下さい。

■大学院進学

将来、大学等の研究機関で研究に従事したい、国連等で国際公務員として働きたい、証券アナリスト等のスペシャリストを目指したい、という人は、大学院へ進学してより高度な専門知識を修得する必要があります。大学院には博士課程(前期課程2年、後期課程3年)と修士課程(2年)があります。博士前期課程(修士課程)では修士、博士後期課程では博士の学位を取得できます。

滋賀大学には大学院経済学研究科が設置されています。平成13年度には、従来の経済学専攻、経営学専攻に加え、**グローバル・ファイナンス専攻**が設置されました。また、平成15年度からは、博士後期課程(経済経営リスク専攻)も設置されています。最短5年で修士の学位が取得できる**5年一貫制度**が導入されていますので、積極的に活用をしてください。

大学院進学には、大学院入試に合格しなければなりません。一般に、経済学系大学院入試には語学試験(英語等)、経済理論、及び金融論、財政学といった各専門科目の試験が課されています。特に語学力については、入学後に外国の学術論文を読みこなすことができる程度の能力が必要とされます。

以上、いくつかの進路をあげ、その為に必要な知識、大学で履修すべき科目等を説明してきました。しかしながら、ここで挙げたものはほんの一例にすぎません。皆さんが将来の進路を意識し、主体的に科目の選択を行うことを希望しています。

金融工学・経済学への誘い

楠田 浩二

私達は日常の経済活動において様々なリスクに取り巻かれています。例えば、家計の立場からは自動車事故に伴う損害賠償の支払い（自動車事故リスク）や疾病・障害に伴う治療費の支払い（疾病・障害リスク）等が、企業の立場からは輸出企業の場合の為替円高に伴う円手取りの減少（為替変動リスク）、保有株式の価格下落に伴う資産価値減少（株価変動リスク）などが挙げられます。こうしたリスクは市場で取引されている証券を適切に売買することにより管理可能です。自動車事故リスクに対しては自動車保険、疾病・障害リスクに対しては医療保険、為替変動リスクに対しては為替先物、株価変動リスクに対しては最も頻繁に取引されている派生証券であるヨーロッパ・オプション等の株価派生証券（デリバティブ）といった具合です。

私は、個々の消費者や企業が、これら証券の売買等を通じ、どのようにリスクを管理しているのか、或いはどのようにリスクを管理すべきか、そして、こうした個々の経済主体のリスク管理行動の結果、個々のリスクは市場でどのように評価されているのか、或いはどのように評価されるべきか、ということに関心があります。金融工学及び金融経済学の方法は、こうした問題に対する最も有力かつ体系的なアプローチであり、ブラック・ショールズ・モデルをはじめとする多くのモデルや、マルチンゲール法、モンテカルロ・シミュレーション法等の様々な計算技術は、既に実用化されており、実務の現場で広範に利用されています（言うまでもなく、経済学の分野で実用化にまで至っているモデルや技術は希少です）。金融工学・経済学は、このほかにもリスクに関連する様々な未解決問題に対し有力な解答を与えつつあります。

例えば、これまではリスク評価が困難なため管理ができなかったリスクも、金融工学・経済学の方法によりの確な評価が可能となり、これらのリスクを管理するための「証券化」が既に実務レベルで急速に進みつつあります。多くの個人向け住宅ローン債権を一纏めにしたプール全体からの収益を原資とするモーゲージ担保証券（住宅ローン金利の変動等に伴う期限前償還リスクの評価が必要）、地震や台風等の大規模自然災害がもたらす被害への保険金支払いリスクが証券化されたCAT（Catastrophe Bond）債券、気温等の天候変化がもたらす企業収益の変動リスクが証券化されたWLS（Weather Linked Securities）、二酸化炭素等有害物質の排出権規制により生ずる製造業の生産リスクが証券化された排出権取引契約などが例として挙げられます。

また、純現在価値理論やトービンのq理論等の従来の投資理論では十分に説明できなかった企業が実物投資を行う場合の時機・方法、同投資の評価額等についても、リアル・オプションと呼ばれる金融工学・経済学の方法により説明されつつあります。本稿を読まれて金融工学・経済学に少し興味を持たれた方は、まず野口悠紀雄『金融工学、こんなに面白い』（文春新書）、大橋和彦『証券化の知識』（日経文庫）を一読されることをお勧めします。さらに、これらを読まれて金融工学・経済学を本格的に勉強したいと思われた方は、学部下級生の間に微積分、確率・統計、線形代数の基礎をしっかりと勉強されることをお勧めします。

教員紹介

井手 一郎 IDE Ichiro

研究室・オフィスアワー： 419、随時（要予約）

メール・アドレス：ide@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野：経済理論、金融の公共経済学

現在の研究テーマ：契約理論、金融秩序の形成と公的主体の役割、探究の条件、金融動学

授業科目：学部 ミクロ経済学、金融契約論、サービス経済論

大学院 金融の公共経済学特講

新入生の皆さんへ：

教員の指定した本を指示通りに読み、欠かさず授業に出席し、講義と同じ答案を書いて高い評点を得る典型的な優等生を、手放して賞賛できないのは何故だろうか。

各専門科目の「ゲームのルール」に、その都度適応して勤勉さを発揮することは、認識の現場に至るための一つの準備作業に過ぎない。様々な専門知や雑多な経験的知見を相互に比較し検討することから、各領域の内的論理を超える「私」の観点が浮上してくる。新しい自前の着想や理解は、いつも、予想外の場所から現れ、身近の紙片にすぐに書き留めておかななくては消えてしまうほど淡く移ろいやすい。時間を置いてそれらの紙片を読み返し、再考し、より明晰な表現に直して書き留める。それだけの習慣から、長い時間の後に、膨大な手稿群が生み出されてくる。書き直されることに無限に開かれているこれらの手稿群は、常に暫定的であるが他ではありようのない、その時点での「私」の見解を表現する。

主体的に生きることが、よりの確な認識の生成と不可分であることを思うとき、主体的に生きようとする意志がある限り、よりの確な認識の生成を目指す運動には終わりが無いことが理解される。大学は、そのような認識的主体の誕生の場であるべきだろう。

新入生に薦める本：

- ①蓮實重彦・山内昌之『われわれはどんな時代を生きているか』講談社現代新書、1998年。
- ②長田弘『私の二十世紀書店』中公新書など、1982年。
- ③花田清輝『復興期の精神』講談社学術文庫など、1946年。
- ④宇沢弘文『近代経済学の再検討：批判的展望』岩波新書など、1977年。

金谷 太郎 KANATANI Taro

研究室・オフィスアワー： 518、火曜12:10～12:50

メール・アドレス：t-kanatani@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野：計量ファイナンス

現在の研究テーマ：金融高頻度データを用いるための統計的手法の研究

授業科目：学部 計量ファイナンス基礎、計量ファイナンス

大学院 計量ファイナンス特講

新入生の皆さんへ：

大学生になると今までより自由が与えられ何を選択するかに迷ってしまうかもしれません。これは学校の勉強に限ったことでもありませんが、ちょっと自分には難しそうだなと思うものに挑戦してみるのはいかがでしょうか？案外難しそうなのは見かけだけのこともあるし、そういうものの中から熱中できるものを見つけることが出来る可能性が高いし、また失敗が許される時期でもあるからです。

新入生に薦める本：

①デカルト（谷川多佳子訳）『方法序説』岩波文庫、1997年。

②吉田武『オイラーの贈り物』ちくま学芸文庫、2001年。

菊池健太郎 KIKUCHI Kentaro

研究室・オフィスアワー： 研究室 512、水曜日の昼休み

メール・アドレス：kentaro-kikuchi@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野：金融工学

現在の研究テーマ：株式と債券価格の同時モデリング、金利期間構造モデルの構築

授業科目：学部 銀行論、証券分析とポートフォリオ・マネジメント I

大学院 ファイナンス特講 I・II

新入生の皆さんへ：

ご入学おめでとうございます。皆さんには、時間も手間も惜しまず、知識を貪欲に吸収していてもらいたいと思います。経済学の偉大な先人達が築き上げてきた考え方を身体に取り込んでいて下さい。知識が増えるとともに、世の中の見え方が変わってくるはずです。思考力の源泉ともなることでしょう。同時に、習得した知識と現実社会の「ずれ」に気づかされることになると思います。その「ずれ」は、世の中が経済学の知見を十分に活かさきれていないことから生じるものかもしれません。どのようにすれば、経済学の知

見を活かすことができるのか考えてみましょう。実践する力が培われることでしょう。また、知識と現実社会の「ずれ」は、経済学が想定する世界では語りできない現実社会の複雑さを映じているのかもしれませんが。習得した知識を一度疑い、「現実をよりよく反映する経済学が作れないか」と思考をめぐらせてみるのも一興です。刺激に飛んだ知的な冒険となるに違いありません。是非、充実した大学生生活を送って下さい。

新入生に薦める本:

- ① マイケル・ルイス (中山宥 訳) 『マネー・ボール』 ハヤカワノンフィクション文庫
- ② 中室牧子・津川友介 『「原因と結果」の経済学』 ダイヤモンド社

楠田 浩二 KUSUDA Koji

研究室・オフィスアワー： 405・木曜日12:00～12:50

メール・アドレス： kusuda@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野： リスクと不確実性の経済学、金融工学

現在の研究テーマ： 資産価格、派生資産価格の理論・実証研究

授業科目： 学部 証券分析とポートフォリオ・マネジメントⅠ～Ⅲ

大学院 証券分析とポートフォリオ・マネジメント特講Ⅰ・Ⅱ、リスクの経済学
特殊講義

新入生の皆さんへ：

「愚者は経験から学び、賢者は歴史から学ぶ」という言葉があります。こうした観点から書物を選び著者と対話を交わすようになってから早くも20年近くの歳月が経ちましたが、未だに歴史から学べる賢者にはほど遠いのが実情です。残念ながら、この有様ではいつになっても賢者にはなれないでしょうね。しかし、自分の僅かな経験のみから物事を理解できたと思いきよむような据傲に陥ることなく、また歴史から学ぶということが如何に困難な知的作業であるかがおぼろげながら分かりはじめ、さらに暗黒としか表現しようのなかった絶望的な世界に少しでも灯りを点そうと闘ってきた多くの勇気や優しさを持つ人々がいたことを知ることができたのは、自分のこれまでの人生における他の何物にも代え難い収穫です。歴史は、我々が知性感性を磨けば磨くほど、経済、政治、社会、文明、人生等に対する高度な見識を養うための様々な材料を提供してくれる、汲めども尽きぬ知の泉であると思います。皆さんも歴史から学ぶことに挑戦されることを強くお勧めします。

新入生に薦める本：

- ① ミルトン・フリードマン、ローズ・フリードマン 『選択の自由』 日経ビジネス人文庫、

2002年。

1970年代に沈滞していた米国経済が再活性化した主要因の一つとして、1970年代後半以降実施されてきた一連の規制緩和政策により民間活力が蘇生したことが挙げられる。本書はこうした規制緩和政策推進に最も多大なイデオロギイ的貢献を行ったとされるノーベル経済学賞受賞者による一般向けの代表的著作。フリードマンと異なる経済観を持つレスター・サロー、ポール・クルーグマンらの諸著作と読み比べたい。

②堺屋太一『日本の盛衰』PHP 新書、2002年。

著者は1980年台央に著した『知価革命』の中でダニエル・ベルの『脱工業化社会』やアルビン・トフラーの『第三の波』では示されていない次に到来するであろう経済社会を「知価社会」として予測した。その後の世界の経済社会の動きをみると、この予測は相当程度的中しつとあると思われる。本書で著者は、日本が近代百年で築き上げた官僚主導の文化を徹底解明し、それが生んだ「負の遺産」を如何に克服し、日本型知価社会を如何に築き上げるかを説いている。

③岡崎久彦『陸奥宗光とその時代』等の外交官とその時代シリーズ、PHP 文庫、2003年。

「日本近代史の総まとめとして、いままで上梓された歴史書のなかから、これこそが真実と思われるものを物事の軽重のバランスを考えつつ紹介する」との目的から著された外務省OBによる日本近代史への入門書。

④西部邁『貧困なる過剰』PHP 文庫、1991年。

「ヨーロッパは近代に対する信念と疑念という二律背反の気持ちを抱いていた。表面ではそれを信じ、裏面ではそれを疑うというかたちで、近代精神は二重構造を有していた。この二重構造は、近代精神がアメリカに移植されたときに一面化され、その結果、近代に対する自己懐疑が薄められるに至ったのである」など、現代社会に対する鋭い批判が綴られた社会評論集。

⑤佐々木毅『現代アメリカの保守主義』岩波書店、1984年。

本書は「民主主義、自由、人権、福祉といった概念を抽象的な形で用いるだけで有意味な政治論が完了する」といった時代はわが国においても過ぎ去って久しい」との認識を持つ著者が、アメリカで1960年代に台頭した新保守主義を批判的に分析したものであるが、政治学の入門書としても優れていると思われる。

⑥チャールズ・カプチャン『アメリカ時代の終わり』NHK ブックス、2003年。

冷戦後の国際情勢を読み解き安全保障に関するグローバル・ストラテジーを構築するための必読書であるが大著のため敷居が高いポール・ケネディ『大国の興亡』、フランシス・フクヤマ『歴史の終わり』、サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』等に誘う一般向け著作。

近藤豊将 KONDO Atsumasa

研究室・オフィスアワー：425、昼休み（メールにて随時受付）

メール・アドレス：a-kondo@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野：マクロ財政学、非線形解析学

現在の研究テーマ：財政の維持可能性の理論研究、不動点近似法

授業科目（学部）：マクロ財政学、ファイナンス数学入門

授業科目（大学院）：マクロ財政学特講

新入生の皆さんへ：

入学おめでとうございます。大学生の間は、自由に使える時間が豊富に与えられた貴重な時間です。打ち込めるものを見つけ、社会に出てからではできないことに思いっきりやってみてください。きっと、長い人生の貴重な糧になると思います。願わくば、それが経済学の学習であったなら、教員としてはうれしい限りです。

新入生に薦める本：

- ① 松下幸之助『道をひらく』PHP研究所
- ② 野村克也『私が野球から学んだ人生で最も大切な101のこと』海竜社

村松郁夫 MURAMATSU Ikuo

研究室・オフィスアワー：526、金曜日の昼休み（メールにて随時）

メール・アドレス：muramatu@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野：企業財務論

現在の研究テーマ：企業の組織再編行為、株式報酬制度に関するデータ分析

授業科目（学部）：コーポレートファイナンス I, 企業財務と情報 II（情報管理学科開講科目）

授業科目（大学院）：コーポレートファイナンス特講 I, 財務管理論特講 I

新入生の皆さんへ：

大学を卒業するためには、学部規定に定められた単位を修得する必要があります。卒業要件と呼ばれるものです。大学は、学生の皆さんに、こうしなさい、ああしなさい、こうすればよいですよ、と言いますが、するしないは皆さんに委ねられています。しなくても咎められることはありません。学業でもそれ以外でも、自ら興味を持って追いかければ、向こうからは何もやって来ません。まずは、何に興味をもてるのか、探すことから始めましょう。

新入生に薦める本：

- ① マイケル・ルイス 『世紀の空売り—世界経済の破綻に賭けた男たち』 文春文庫
映画『マネー・ショート 華麗なる大逆転』の原作。ファイナンスの世界って、理論は小難しいけど、現実はテキトーだね。

吉田桂 YOSHIDA Katsura

研究室・オフィスアワー：610、火曜日の 12:10～12:50

メール・アドレス：katsura-yoshida@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野：財政・金融の実証分析

現在の研究テーマ：滋賀県の財政運営の検証

授業科目：金融システム論、金融法（学部）、金融法特講（大学院）

新入生の皆さんへ：

皆さん、滋賀大学へご入学おめでとうございます。大学生時代は若いうちで一番自由な時間が取れる時期ではないでしょうか。アルバイトや遊びは皆さんの方が詳しいので、大学での学習に触れたいと思います。

受験勉強で得た知識は、無駄ではないと思います。知識がなくては物事を考えることができません。ただし、知識は時間が経つと忘れていくものです。大学での勉強では、表面的な知識を得るだけではなく、経済がどのような仕組みで動いているのか、経済学がどのような思想の下発展してきたのか、そういった仕組み、思想といった背景について、深く理解していくように心掛けてください。そして、深い理解の下、ある事象に対して自分ならどう考えるかといったことを思索するにあたって、物事の論理的な考え方も大学で学んでください。そうして学んだ成果を先輩たちは卒論という形で残していていますので、それを一度見てみてください。4年後にはそうしたものが書ける総合力を身に付けていてください。それから、自分がどのような物事に関心があるのかを日々探してってください。

新入生に薦める本：

- ① 戸部良一他2名『国家経営の本質』日本経済新聞出版社
- ② 外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫
こういった本で、物事の考え方のとっかかりを学んでは如何でしょうか。
- ③ 市村英彦他3名『経済学を味わう』日本評論社
- ④ 長沼伸一郎『経済数学の直感的な方法』マクロ経済学編、確率・統計編、講談社

入学して早速読む必要はありませんが、経済学のイメージを早いうちに(適当な時期に)持っておくと、大学での学習がしやすいのではないのでしょうか。

吉田裕司 YOSHIDA Yushi

研究室・オフィスアワー: 研究室 516、木曜昼休み(12:00-12:50)

メール・アドレス: yushi.yoshida@biwako.shiga-u.ac.jp

現在の専門分野: 国際金融、国際経済、貿易論、ファイナンス

現在の研究テーマ: 外国為替市場の高頻度データ分析、株式市場の国際連動性、為替レート変動への貿易財価格の反応度、国際貿易と汚染排出

授業科目: (学部) 国際金融論 I・II、比較金融システム論
(大学院) 国際金融論特講

新入生の皆さんへ:

高校までの勉強は、教科書によって制限された(limited)知識範囲内で、どれだけ良く理解しているかを問われてきました。おめでとうございます、もうこの制限からは解放されます。

大学では興味を持ったことを制限なく(unlimited)探求して下さい。大学は、学生も教員もいっしょになって、このアンリミティドな勉強(研究)をする場です。授業で学んだことで終わらず、さらに興味を広げて下さい。自分で図書館に行き、関係のある本をパラパラとめくって下さい。すると新たな疑問が生じたり、違う方向に興味を広がりたりするかもしれません。しかし、決してそこで立ち止まらず、さらに勉強を進めて下さい。

つまずいたら、(一緒に悩むかもしれませんが)我々教員に投げかけて下さい。一心不乱に突き進めば、いつかは誰も踏み込んでいない地にたどり着けるかもしれません。

新入生に薦める本:

① John Steinbeck 『The Grapes of Wrath』(1939年)(邦題「怒りの葡萄」、映画もあります)

大恐慌のころの物語で、労働者、人間の尊厳、について考えさせられ、経済の重要性を痛感しました。原著を読んだのは私が高校生の時で、経済学を勉強したいという動機の一つとなりました。スタインバックは、ノーベル文学賞を受賞しています。

② Jeffrey Sachs 『The End of Poverty』(2005年)(邦題「貧困の終焉」)

コロンビア大学教授が我々の世代の内に、世界の貧困は無くせるんだ、ということを説明している著書です。原著で読んだのですが、(しっかり読まなくても理解できるので)飛ばし読みしかしていません。皆さんは、訳本をゆっくり読んでください。

以 上